

(2012年07月03日実施)

第13回 JOMF 特別企画セミナー 東京開催のご報告 (記事スタイル)

2012年07月03日、総本山智積院別院 摩尼珠山真福寺講堂において 第13回セミナーが開催された。題して『海外駐在員とそこご家族の心の危機管理』セミナー。なお今回は、公益財団法人 海外子女教育振興財団 (JOES) との初の共同開催となった。



JOES 中村理事長が冒頭のご挨拶

本セミナーの講師陣には、2010年10月29日の海外医療情報交換会、翌2011年01月11日の大阪でのミニ・セミナーでも講師をして戴いた 外務省メンタルヘルス対策上席専門官の鈴木満先生をメインに、企業におけるメンタルヘルスへの取り組みについての事例紹介を、日本航空株式会社 健康管理部 首席医師 松永直樹先生と 住友商事グループのSCGコンサルティングセンターから センター長の氏橋隆幸様とシニア産業カウンセラーの森川妙子様をお招きすることができた。

演題については、発表順に第一部が企業事例で、

- ① 『住友商事グループにおける取り組み事例紹介』 (氏橋隆幸様・森川妙子様)、
 - ② 『日本航空における海外勤務者のメンタルヘルス ～事例から学ぼう～』 (松永直樹先生)、そして、
- 第二部は鈴木満先生による、『海外派遣者と家族のメンタルヘルスABC ～採用・人選・渡航前研修から派遣後ケア・復職支援まで～』とした。

会場は、名前からも察せられるが、JOESの事務所があるビルの地下一階(入口は別)だが、入りきれない程の152人からの参加申し込みがあった。



補助椅子を使わねばならない程盛況でした

—参加者数は？

A: 6名減って146名の方に参加戴きましたが、雨が降り出した中での開催にもかかわらず、キャンセル率は4%にとどまりました。申し込みベースでの男女別は女性85名、男性64名と女性が多かったですね。尤も、JOESの参加者の中に性別不記載が3名いましたが、共催の形をとったことと、7月12日の脱水症対策セミナーとの併走になっていたことから、基金としてそこまでの確認ができませんでした。職種別では人事・総務・安全管理等の一般参加者が112名、医療関係者が40名(26.5%)名でしたが、JOMFだけの参加者を見ると医療関係者は77名中40名(52%)、JOESでは75名中医療関係者は1名(1%)で、残り74名は、一般・人事・総務関係者でした。

—住友グループのお二方の発表内容は？

A: 氏橋さんは、もともと海外経験豊富な営業マンですが、コンサルティングセンターを創設されたときからこれまでにご自分でも産業カウンセラー、キャリアコンサルタントの資格を取得された方で、語り口もやさしく、そして誰にも判りやすくお話を進めてくださいました。一見して相談者数が増えているような相談者数の変遷グラフを見せながら、相談の内容が会社の業務関連の内容より家族の教育や個人の成長のための相談等の面で増えているのであり、メンタルヘルスを発症する前に、皆さんが来やすいセンターを作ってこられた点を強調されていました。それをクリアするための工夫や社内トップからの理解があったことなど、恵まれた点があったこともよくわかりました。



常に笑顔を絶やさない氏橋さん

森川さんは、ご自分も海外での経験が豊富なことから、相談者のご家族からの信頼を得やすいというメリットを生かしつつ、国内の事業場での出張相談から始めた活動が徐々に海外に住む駐在員やそこご家族に展開されてきた経緯を説明されていましたが、「赴任前にちゃんと私たちカウンセラーがいるから心配しないでね」というメッセージを駐在員のご家族にきちんとお届けしている、いわゆる『顔の見えるカウンセラー』としてご活躍していらっしゃる事が良くわかりました。



ハキハキ、ニコニコの森川さんは「ヘラヘラ」型ではないですね。

—松永先生の発表内容は？

A: 松永先生の発表は、日本航空の運航乗務員や客室乗務員、地上職 **8,700** 人の健康管理体制、神経科の体制などについての説明に続き、実際に海外出張先や駐在先等で発生した「幻覚妄想」、「アルコール依存」、「うつ」に陥った社員の事例をもとに、夫々の対応についての説明をして戴きました。かなりディープな内容で、「よくぞここまで」とも感じましたが、来場された医療食やカウンセラーなどの方には特に参考になったのではないかと思います。



ケーススタディの説明をされる松永先生はクールでダンディ。

—鈴木先生の発表内容は？

A: 鈴木先生には、**JOES** さんと一緒に外務省に講師のお願いに上がった時から、メンタルヘルスのABCという大テーマの中に、『採用』と『ご家族のケア』という点を組み込んだ形でお話をして戴きました。事前に戴いていた資料と実際に上映されたスライドの順番が異なっているものが多くあったことについては、事後の懇親会やアンケートでもかなりコメントが来ていましたが、宮本のように会場の司会兼カメラ係、照明係、音響係をしていた人間にとっては、「スライドとお話」しか聞いていなかったもので、すんと胸に落ちた感じがしました。（この点については、大阪での来年 **01** 月 **11** 日のセミナーでは修正するようにします）



ニコニコテキパキ、ハキハキ、そしてヘラヘラなどの観点から採用のチェックをしていると話される鈴木先生。

外務省の採用面接時のチェック項目 **30** 項目のうち **20** 項目が披露されていましたが、その評価点の中のトップから、『ニコニコ(外交性)、テキパキ(作業推進力)、ハキハキ』に続けて、**4** 番目に『ヘラヘラ』という言葉(というより性格)を上げられていたのが印象的でした。「人事は往々にしてこれを嫌う傾向が強いがこういう人こそ海外では強い！」という先生の言葉を聞いて、「ウンウン」と頷いている方が結構多かったことが印象的です。あとの懇親会場でも「僕らは『ヘラヘラ』組だね」と話している人を多数見かけました。

—Q&A も実施？

A: はい、会場の予約時間の関係と、スケジュールが押していたため、あまりじっくりと Q&A をできませんでしたが、夫々の講師の方いくつかの回答をして戴くことができました。大阪で実施予定の『再放送』バージョンではもう少し、時間的にゆとりがあるので、突っ込んだ議論ができるのではないかと、ミニセミナー本来の突っ込みが期待されます。



—懇親会会場は満杯でしたね？

A: はい、鈴木先生の日頃のお言葉ですが、こういう話は軽く飲食しながらの方が奥行きがあるとのことで、当初の参加予定者から増えたようで、本当に満杯でした。それでも、名刺交換をしながら色々な方と Face-to-Face でお話をすることができたのではないかと思います。

—最後にひとこと？

A: このセミナーを大阪でも展開する予定です。日程は、来年 **01** 月 **11** 日。これは、きしくも **2011** 年と同じ日にです。大阪では少しコンパクトな形で実施し、基金本来のセミナーのように講師と参加者の距離を縮めたいと考えています。